

ワーキンググループ議論に関する意見

現在に資料には概ね賛同しておりますが、感じているところを提出させていただきます。論点に沿って、

(1) 施設整備の基本について

- ・「基本的な考え方」に示された内容を施設のコンセプトとし、「展示・編集方針」を明確にしたい。
- ・ 過去、現在、未来の時間軸を体感できる施設にしたい。
- ・ 公文書がどのように制作されるのか、ビジュアル、印などの流れも見たい。
- ・ 公文書発行の前後で何が変わったのか、歴史がどう動いたのかを想像できる展示内容を追求したい。

(2) 施設設備の諸条件について

- ・「本物」の展示については、付加価値をつけるかたちで（御開帳のイメージ）何年に一度か、あるいは特別展示に合わせるスタイルとして、集客につながるようしてはどうか。
- ・ 一方通行で見て終わりではなく、回遊できるような空間になるとよい。
- ・ デジタル技術は建築中にも進歩を遂げる。先を見据えつつ、最先端ツールや手法が導入できるよう柔軟な体制にしておきたい。
- ・ 映像表現、音声もデジタルとの融合を図りたい。
- ・ 「日本の修復技術」を世界に打ち出すような企画があるとよい。
- ・ 海外の専門家が、公文書館の「すごい技」を学びにくるような企画もできる。

(3) 諸室の配置について

- ・ 新施設においては、職員の方々の気持ちも新たに、仕事へのモチベーションがあがるような工夫と、事前からのインナー広報が重要である。
- ・ 「バックヤードツアー」の開催も考慮して、配置を検討したい。

(4) 広報について

- ・ 新たな公文書館の設立が発表になる時点から、広報をスタートさせる。
- ・ 同時進行で、状況を社会に報告し、社会を巻き込んで行く。
- ・ 『ティーザー広告』的な動きを進めて行く。
- ・ 「友の会」をはじめ、ファン層をまず巻き込み、意見交換やアイデア会議に参加をしてもらう。インフルエンサー機能で、情報が段階を経て流れるようなしくみをつくる。
- ・ 数々の広報イベントを企画して行く。